

平成23年度  
事業計画書

学校法人阪南大学

## 1. はじめに

平成23年を迎え、経済状況は幾分改善の兆しが現れておりますが、大学を取り巻く環境は依然厳しい状況が続いております。昨年度、入学定員を充足できなかった私立大学は全体の38.1%に及んでおります。また、平成21年度に、収入から支出を差し引いた帰属収支差額がマイナスとなった私立大学は、39%（226校）あったと公表されました。そのような中、本学は、平成22年度も定員を上回る入学生を迎えることができ、その使命の重さを痛感しております。

本学は、平成22年度事業計画の柱として、国際観光学部を開設いたしました。平成23年度事業計画を策定するにあたりまして、平成22年度の事業がほぼ計画通り実施できておりますことを、先ずご報告いたします。

平成23年度におきましても、学園の経営方針である「借入金に依存しない健全経営」、「将来に備えての現保有資産（現預金）を確保」を遵守することを大前提として、学生生徒の満足度をより高めるための施策を講じます。

とりわけ大学におきましては、学生の就職に関する支援を強化いたします。高等学校・同中等部におきましては、現在、教育改革を進めているところであります。平成23年度に、高等学校に新コ-ス（文理特進コ-ス）を設置いたします。

阪南大学、阪南大学高等学校及び同中等部は、今後も教職員一丸となって学生生徒支援に取り組めるよう、より良い職場環境構築にも配慮し、社会からの信頼に応える学園作りに努めてまいります。

## 2. 事業計画

### <法人>

#### (1) 社会的責任を果たす経営体制の強化

常任理事会を引き続き、原則毎週開催し、必要な施策を講じてまいります。

常任理事を増員し、経営体制の強化を図ります。

学園の監事が会計監査人と連携しながら監査機能の強化を図っていきます。

#### (2) 学園経営方針の遵守

学園の経営方針である「借入金に依存しない健全経営」、「将来に備えての現保有資産（現預金）を確保」を遵守いたします。無駄な支出を抑え、学生生徒支援に対して必要な措置がとれるよう、学園経営に努めます。なお、保有資産は、現金預金のみで安全確実に運用いたします。

## <大学>

平成22年度に引き続き、1研究科5学部5学科のもとで、よりよい教育研究の実現、よりよい教育研究環境の整備と学生満足度のさらなる向上を目指す取り組みを推進していきます。

### (1) キャリア支援の強化

個別面談実施によるキャリアカルテ作成し、低学年からのキャリア意識の向上を図ります。

キャリア教育の充実させるため、大学教育センターキャリア教育部会を中心として検討いたします。

「キャリアゼミ」を中心として、ゼミ活動との連携強化を図ります。

ゼミ単位での学生動向を把握いたします。

キャリアカウンセラー等によるキャリア支援体制の充実を図ります。

学内諸機関との連携、全教職員による支援強化を推進いたします。

学生一人一人の個性にあったキャリア相談の実施を目指します。

企業連携による人材育成プログラムを構築いたします。

学内における各種セミナーならびに企業説明会を拡充いたします。

資格取得の支援体制の拡充するため、図書館にエクステンションスペースを設置いたします。

### (2) 授業、教育方法及び教育支援システムの改善

FD、SD活動の強化を図るために、「大学教育センター」を設置いたします。

授業計画書に授業外学習の項目を追加し、授業理解度の向上を目指します。

TA、SAを活用し、授業運営の充実を図ります。

授業評価を充実させ、評価結果を活用いたします。

「キャリアゼミ」を拡充し、実学教育の充実をさらに図ります。

国内外インターンシップを推進いたします。

学部横断型教育プログラム（英語、特別クラス）を導入いたします。

次期教育研究用システム（教室のIT化整備等含む）の導入準備を進めます。

### (3) 学生支援体制の強化

緊急特別奨学金制度を導入し、学生生活の支援を行います。

新入生に対するオリエンテーション・キャンプを拡充し、

教育方針の周知、帰属意識・愛校心の涵養、学生間の交流促進を図ります。

学習支援室の活動を強化するため、教員と担当部署（教務課、学生課、学生相談室）との連携を促進いたします。

「英会話ラウンジ」の事業を拡充し、留学対応の特別講座を実施いたします。

学生の課外活動を活性化するため、クラブ指導体制の強化を図ります。

（サッカー部、硬式野球部に加えて、チアリーディング部も強化対象といたします。）

良好な学園環境を維持するため、マナー教育（喫煙、社会生活）、薬物乱用防止、セクハラ・パワハラを徹底いたします。

( 4 ) 入学者の確保

入学を推進するため、本学の魅力を伝える広報活動をさらに検討いたします。  
志願動向を見据え、入試諸制度の検討をいたします。

高大連携の強化を図ります。( 阪南大学高等学校との連携強化、特別連携校の  
検討 )

入学前教育を学部初年次教育と連動させ、充実を図ります。

( 5 ) 自己評価、認証評価申請への取組

財団法人大学基準協会による本学に対する大学基準適合の認定期間が、平成 2  
5 年 3 月で終了いたします。引き続き、財団法人大学基準協会から認証評価を受  
けるため、準備を進めます。

( 6 ) 情報公開への取組

学校教育法施行規則等の改正に対応し、教育情報等の公開を図ります。大学の  
教育研究上の目的、基本組織、教員組織、学生に関する情報、教育課程等の情報  
をホームページで公開いたします。

( 7 ) 創立 5 0 周年記念事業の推進

大学創立 5 0 周年 ( 平成 2 7 年 ) に向けて、( 仮称 ) 阪南大学創立 5 0 周年  
記念館建設の準備に取りかかっております。同時に、記念誌、記念イベント・  
式典の検討も進めてまいります。

( 8 ) 大学後援会・同窓会との連携による父母との連絡強化

本学での後援会総会時の教育懇談会において、就学、生活、就職相談の充  
実を図ります。

地方での教育懇談会 ( 2 会場 ) において、就学、生活、就職相談の充実を  
図ります。

( 9 ) 地域社会との連携強化

松原市・松原商工会議所、河内長野市 ( 平成 2 2 度中に協定締結予定 ) と  
の協定に基づく連携活動の強化を図ります。

( 教育、文化、スポーツの振興、経済の活性化、国際交流、地域経済活性化  
等 )

大阪府中小企業家同友会、兵庫県商工会連合会との協定に基づく産学連携  
活動の強化を図ります。( 地域経済活性化等 )

松原市、羽曳野市等自治体との各種共催講座を実施いたします。

## <高等学校・同中等部>

### (1)「文理特進コース」の設置

平成23年度より高等学校の「国英コース」及び「数英コース」を統合し、「文理特進コース」を設置いたします。「文理特進コース」には、国公立大学現役合格を目指す 類(定員40名)と難関私立大学現役合格を目指す 類(定員40名)を設置し、生徒の進学を支援いたします。

### (2)奨学金制度の新設

平成23年度より、松原市内の市立中学に在学する成績優秀者で、「文理特進コース」への入学を専願で希望する者に対して、奨学金を給付する制度を新設いたします。

### (3)生徒会活動の推進

生徒会活動を通じて、生徒の自主性向上に取り組めます。  
学園祭などの生徒会行事への生徒の参加を推進し、生徒の自主性を育みます。

### (4)食堂の改善

生徒の満足度をより高めるために、食堂の改善を図ります。

### (5)施設の整備

自転車通学者に対応するため、駐輪場の改修等整備を行います。人工芝グラウンドを授業、クラブ活動で有効利用いたします。

### (6)生徒募集の停止

平成24年度より、阪南大学高等学校中等部の生徒募集を停止する。

## 3.学納金

学校法人阪南大学の設置する大学院、大学、高等学校の平成24年度入学者に係る学納金は、据え置きます。

4. 平成23年度予算書(法人全体)

**資金収支予算書**

平成23年4月1日から

平成24年3月31日まで

単位(円)

収入の部	
科目	予算
学生生徒等納付金収入	6,298,484,000
手数料収入	94,738,000
寄付金収入	9,000,000
補助金収入	708,300,000
資産運用収入	66,000,000
雑収入	127,600,000
前受金収入	989,500,000
その他の収入	463,022,735
資金収入調整勘定	1,288,709,000
前年度繰越支払資金	10,958,355,157
収入の部合計	18,426,290,892
支出の部	
科目	予算
人件費支出	4,013,198,000
教育研究経費支出	1,328,329,000
管理経費支出	397,626,000
施設関係支出	74,746,000
設備関係支出	71,023,000
資産運用支出	1,050,000,000
その他の支出	333,469,004
資金支出調整勘定	132,680,317
次年度繰越支払資金	11,290,580,205
支出の部合計	18,426,290,892

**消費収支予算書**

平成23年4月1日から

平成24年3月31日まで

単位(円)

消費収入の部	
科目	予算
学生生徒等納付金	6,298,484,000
手数料	94,738,000
寄付金	9,326,000
補助金	708,300,000
資産運用収入	66,000,000
雑収入	127,600,000
帰属収入合計	7,304,448,000
基本金組入額合計	507,000,000
消費収入の部合計	6,797,448,000
消費支出の部	
科目	予算
人件費	4,060,198,000
教育研究経費	1,968,329,000
管理経費	469,626,000
消費支出の部合計	6,498,153,000
当年度消費収入超過額	299,295,000
前年度繰越消費収入超過額	12,637,621,536
翌年度繰越消費収入超過額	12,936,916,536